

伊那谷・経済動向

中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

ALSHIN
BANK<https://www.shinkin.co.jp/alshin/>

主要指標		今期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業安定所管内)		2023/11 1.31 倍	2022/11 1.65 倍	前年同月比 -0.34 倍
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	6,460 台	5,760 台	12.15 %
	中古車	2,167 台	1,894 台	14.41 %
	合計	8,627 台	7,654 台	12.71 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)		9~11月 338 件	9~11月 211 件	60.19 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		45,610 人	46,420 人	-1.74 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	292,339 台	287,260 台	1.77 %
	出	281,772 台	274,737 台	2.56 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	296,452 台	289,660 台	2.34 %
	出	304,446 台	300,146 台	1.43 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	150,560 台	138,654 台	8.59 %
	出	147,728 台	137,477 台	7.46 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	247,151 台	246,238 台	0.37 %
	出	255,016 台	250,397 台	1.84 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	75,105 台	69,066 台	8.74 %
	出	71,607 台	66,133 台	8.28 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	195,375 台	193,806 台	0.81 %
	出	190,969 台	187,754 台	1.71 %

前期 7 - 9 月 今期 10 - 12 月 来期 1 - 3 月 4 - 6 月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先191社に対し、2023年10月～12月期の景気の現状と2024年1月～3月期の見通しを調査したものです。

地区内の景況観

◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は**18.2%**（前期**19.8%**）、悪かったとする企業は**35.3%**（前期**39.0%**）であった。業種別に見ると、良かったとする企業の割合が最も多かったのは**小売業**で**29.0%**（前期**28.1%**）、続いて**建設業**が**23.7%**（前期**14.6%**）、**製造業**が**13.8%**（前期**12.5%**）の順となった。また、悪かったとする企業が多かった業種は**製造業**で**47.7%**（前期**59.4%**）、続いて**サービス業**が**39.1%**（前期**21.7%**）、**小売業**が**32.3%**（前期**46.9%**）の順であった。

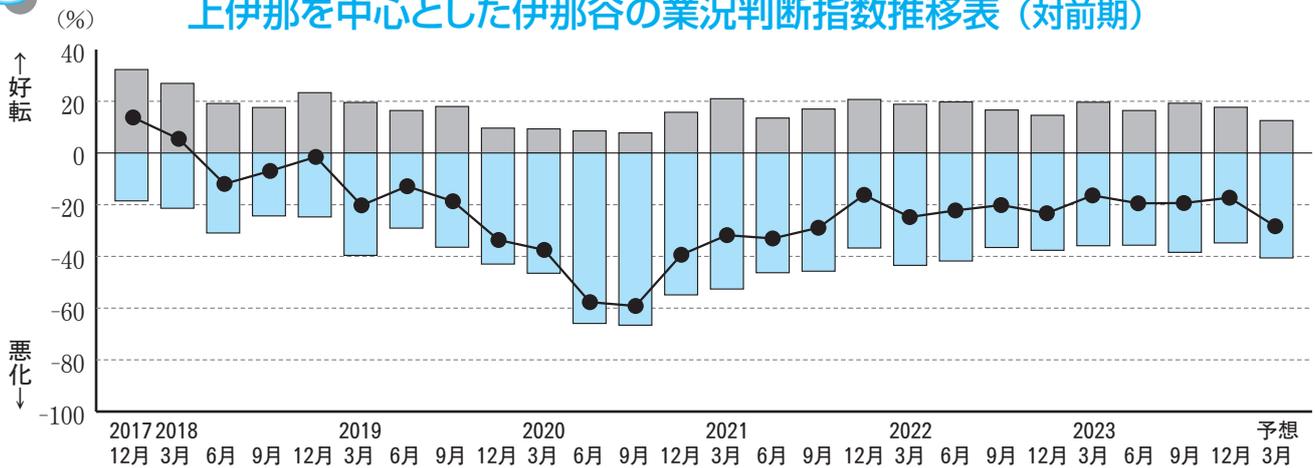
DIを総合的に見ると**▲17.1**（前期**▲19.2**）と水面下のままではあるがプラス**2.1**ポイントでやや上向いた状況。

業種別にDIを見ると、**建設業**が**5.3**（前期**0.0**）とプラス**5.3**ポイントで唯一良好感が出てきているものの、他はすべての業種においてマイナス領域で、**不動産業**においては**▲20.0**（前期**20.0**）と**▲40.0**ポイント、**サービス業**においても**▲26.1**（前期**13.0**）と**▲39.1**ポイントで、どちらも水面下に落ち込み、悪化に転じている。

◇**来期の見通し**：来期の業況予想を総合的に見ると、良いと予想する企業は**12.9%**（今期**18.2%**）、悪いと予想する企業は**41.2%**（今期**35.3%**）、DIは**▲28.2**（今期**▲17.1**）と**11.1**ポイントの下降で低迷する予想となっている。

業種別のDIを見ると、**不動産業**が**0.0**（今期**▲20.0**）で回復予想であるのに対し、**建設業**は**▲15.8**（今期**5.3**）と**▲21.1**ポイントでマイナスに転じ、**サービス業**は**▲52.2**（今期**▲26.1**）と**▲26.1**ポイント、**卸売業**は**▲37.5**（今期**▲12.5**）と**▲25.0**ポイント、**製造業**では**▲36.9**（今期**▲33.8**）と**▲3.1**ポイント、**小売業**では**▲9.7**（今期**▲3.2**）と**▲6.5**ポイントでそれぞれ低調感を強める予想である。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



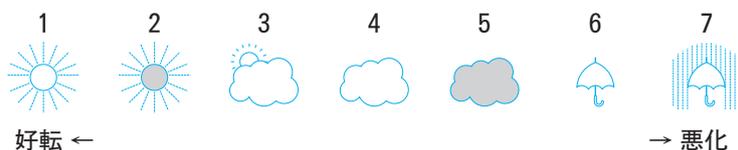
※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

業種別天気図

業種	時期	2023年	2023年	2023年	2024年
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期予想
総合		☁	☁	☁	☁
製造業		☔	☔	☔	☔
建設業		☁	☁	☁	☁
卸売業		☁☀	☁	☁	☔
小売業		☁	☁	☁	☁
サービス業		☁	☁☀	☁	☔
不動産業		☁	☁☀	☁	☁



製造業

(調査先企業72社 うち回答企業65社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**13.8%**（前期**12.5%**）、悪かったとする企業は**47.7%**（前期**59.4%**）、DIは**▲33.8**（前期**▲46.9**）とプラス**13.1**ポイントで悪化幅が縮小している。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**▲16.9**（前期**▲29.7**）とプラス**12.8**ポイント、**収益**のDIは**▲21.5**（前期**▲35.9**）とプラス**14.4**ポイントでいずれも減少幅は縮小している。また、**受注残**のDIにおいても**▲15.4**（前期**▲28.1**）でプラス**12.7**ポイントと減少幅は縮小している。**価格面**では、**販売価格**のDIは**15.4**（前期**6.3**）とプラス**9.1**ポイントで上昇と答えた企業の割合は増加、**原材料価格**のDIでは**▲47.7**（前期**▲45.3**）で**▲2.4**ポイントと上昇は更に強まった。**資金繰り**のDIは、**▲18.8**（前期**▲15.9**）と**▲2.9**ポイントで厳しさが増している。借入れをした企業は**27.7%**（前期**25.0%**）、**設備投資の実施**をした企業は**46.3%**（前期**48.6%**）であった。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**▲32.3**（前年同期**▲31.1**）と**▲1.2**ポイントとやや後退したが、**収益**のDIは**▲43.1**（前年同期**▲52.5**）とプラス**9.4**ポイントで減少に歯止めがかかっている。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲36.9**（今期**▲33.8**）と**▲3.1**ポイントで、悪化幅が拡大する予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、**売上額**のDIは**▲10.8**（今期**▲16.9**）とプラス**6.1**ポイント、**収益**のDIにおいては**▲15.4**（今期**▲21.5**）とプラス**6.1**ポイントとどちらも減少幅は縮小する見通しである。また、**受注残**のDIにおいても**▲13.8**（今期**▲15.4**）とプラス**1.6**ポイントで回復の兆しが見える予想である。**価格面**では、**原材料価格**のDIは**▲38.5**（今期**▲47.7**）とプラス**9.2**ポイントで上昇は弱まり、**販売価格**のDIにおいても**4.6**（今期**15.4**）と**▲10.8**ポイントで上昇は弱まる予想である。**資金繰り**のDIでは**▲17.2**（今期**▲18.8**）とプラス**1.6**ポイントで窮屈感はやや弱まる見通しである。借入れを予定している企業は**20.6%**（今期実施**27.7%**）、**設備投資の実施**を予定している企業は**40.9%**（今期実施**46.3%**）となっている。

◆DI指数推移

	2022年		2023年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業況	▲32.8	▲33.3	▲41.8	▲46.9	▲33.8	▲36.9	
売上額	▲24.6	▲23.4	▲10.4	▲29.7	▲16.9	▲10.8	
受注残	▲31.1	▲21.9	▲25.4	▲28.1	▲15.4	▲13.8	
収益	▲44.3	▲40.6	▲26.9	▲35.9	▲21.5	▲15.4	
販売価格	19.7	21.9	22.4	6.3	15.4	4.6	
原材料価格	▲75.4	▲57.8	▲53.7	▲45.3	▲47.7	▲38.5	
原材料在庫	▲1.6	3.1	10.4	14.1	16.9	12.3	
資金繰り	▲11.5	▲17.2	▲23.9	▲15.9	▲18.8	▲17.2	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借入実施	した	19.7	18.8	19.7	25.0	27.7	20.6
	しない	80.3	81.2	80.3	75.0	72.3	79.4
借入難易度	容易	8.2	6.3	6.1	4.7	13.8	—
	不変	72.1	70.3	77.3	73.4	66.2	—
	難	6.6	6.3	7.6	7.8	9.2	—
	該当なし	13.1	17.1	9.0	14.1	10.8	—

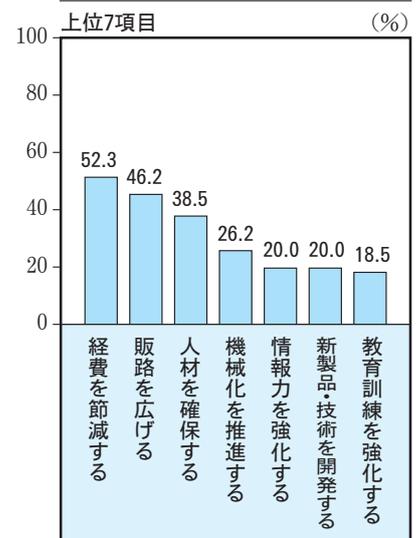
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実施	した	52.7	44.3	45.2	48.6	46.3	40.9
	しない	47.3	55.7	54.8	51.4	53.7	59.1
状況	過剰	3.3	4.7	6.0	12.5	13.8	10.8
	適正	81.9	79.7	80.6	78.1	77.0	81.5
	不足	14.8	15.6	13.4	9.4	9.2	7.7
DI	▲11.5	▲10.9	▲7.4	3.1	4.6	3.1	

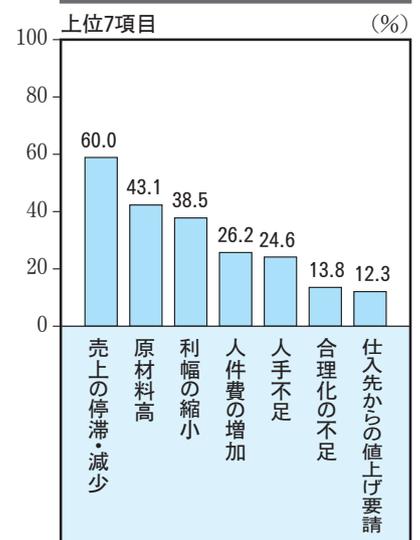
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残業時間	増加	11.5	10.9	16.4	14.1	16.9	15.4
	不変	70.5	67.2	47.8	54.6	52.3	53.8
	減少	18.0	21.9	35.8	31.3	30.8	30.8
人手	過剰	10.0	15.6	14.9	21.9	20.0	13.8
	適正	56.7	57.8	50.8	51.5	56.9	67.7
	不足	33.3	26.6	34.3	26.6	23.1	18.5

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

建設業

(調査先企業42社 うち回答企業38社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**23.7%**（前期**14.6%**）、悪かったとする企業は**18.4%**（前期**14.6%**）で、DIは**5.3**（前期**0.0**）とプラス**5.3**ポイントで好感が出ている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲2.6**（前期**▲4.9**）とプラス**2.3**ポイントでまだ水面下ながら改善されている。また、施工高のDIにおいては**15.8**（前期**▲14.6**）とプラス**30.4**ポイントで好転した。収益のDIでは**▲5.3**（前期**▲22.0**）とプラス**16.7**ポイントで持ち直し、受注残のDIにおいても**21.1**（前期**4.9**）でプラス**16.2**ポイントと増加を強めた。価格面では、請負価格のDIは**15.8**（前期**9.8**）とプラス**6.0**ポイントで上昇傾向は安定しているが、材料価格のDIは**▲71.1**（前期**▲75.6**）でプラス**4.5**ポイントと上昇したとする企業の割合はやや減少した。資金繰りのDIは**▲10.5**（前期**▲4.9**）と**▲5.6**ポイントで窮屈感が増すこととなった。借入れをした企業は**35.1%**（前期**27.5%**）、設備投資の実施をした企業は**46.3%**（前期**39.0%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**0.0**（前年同期**▲17.1**）とプラス**17.1**ポイントで水面上へ回復、収益のDIにおいても**▲10.8**（前年同期**▲31.7**）とプラス**20.9**ポイントで減少幅が縮小している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは**▲15.8**（今期**5.3**）と**▲21.1**ポイントで、水面下に落ち込む予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**2.6**（今期**▲2.6**）とプラス**5.2**ポイントで増加に転じ、収益のDIも**▲2.6**（今期**▲5.3**）とプラス**2.7**ポイントで改善する予想である。受注残のDIにおいては**▲21.1**（今期**21.1**）と**▲42.2**ポイントで増加から減少に転じている。価格面では、請負価格のDIは**7.9**（今期**15.8**）と**▲7.9**ポイントで上昇傾向は弱まり、材料価格のDIにおいても**▲60.5**（今期**▲71.1**）とプラス**10.6**ポイントで上昇傾向はやや和らぐ見通しである。資金繰りのDIにおいては**▲15.8**（今期**▲10.5**）で**▲5.3**ポイントと窮屈感が増す見通しである。借入れを予定している企業は**33.3%**（今期実施**35.1%**）、設備投資の実施を予定している企業は**37.5%**（今期実施**46.3%**）となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	2022年		2023年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業況	7.3	4.7	9.8	0.0	5.3	▲15.8	
売上額	▲12.2	▲9.3	▲9.5	▲4.9	▲2.6	2.6	
受注残	▲2.4	▲7.0	▲4.8	4.9	21.1	▲21.1	
収益	▲17.1	▲25.6	▲21.4	▲22.0	▲5.3	▲2.6	
請負価格	4.9	4.7	9.5	9.8	15.8	7.9	
材料価格	▲80.5	▲76.7	▲57.1	▲75.6	▲71.1	▲60.5	
在庫	▲4.9	0.0	▲2.4	▲2.4	▲5.3	▲7.9	
資金繰り	▲22.0	▲18.6	11.9	▲4.9	▲10.5	▲15.8	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借入実施	した	27.5	23.8	26.8	27.5	35.1	33.3
	しない	72.5	76.2	73.2	72.5	64.9	66.7
借入難易度	容易	0.0	4.8	5.0	5.1	10.8	—
	不変	75.0	64.3	70.0	71.8	67.6	—
	難	5.0	4.8	0.0	5.1	5.4	—
該当なし	20.0	26.1	25.0	18.0	16.2	—	

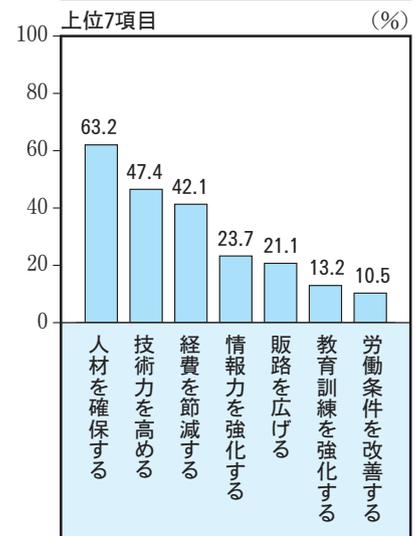
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実施	した	40.5	43.1	43.2	39.0	46.3	37.5
	しない	59.5	56.9	56.8	61.0	53.7	62.5
状況	過剰	2.4	0.0	2.4	2.4	0.0	0.0
	適正	92.7	90.7	90.3	97.6	94.7	97.4
	不足	4.9	9.3	7.3	0.0	5.3	2.6
DI	▲2.5	▲9.3	▲4.9	2.4	▲5.3	▲2.6	

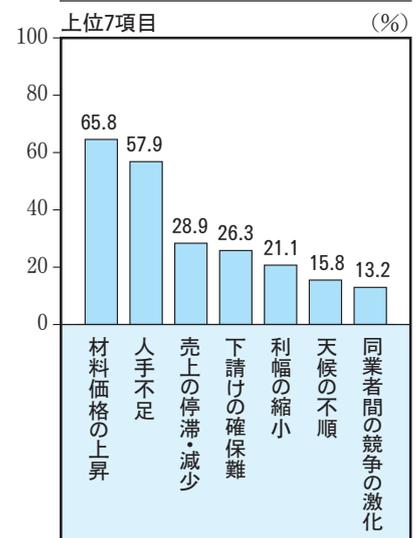
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残業時間	増加	9.8	18.6	4.8	5.0	15.8	18.4
	不変	80.4	67.4	78.5	87.5	73.7	71.1
	減少	9.8	14.0	16.7	7.5	10.5	10.5
人手	過剰	2.4	2.3	7.1	2.4	0.0	4.8
	適正	34.2	39.6	42.9	39.1	39.5	35.7
	不足	63.4	58.1	50.0	58.5	60.5	59.5

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



卸 売 業 (調査先企業8社 うち回答企業8社)

◇今期の業況:今期の業況は、良かったとする企業は12.5%(前期28.6%)と、悪かったとする企業は25.0%(前期42.9%)となり、DIも▲12.5(前期▲14.3)とプラス1.8ポイントで水面下ながら改善している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは25.0(前期▲42.9)とプラス67.9ポイント、収益のDIも37.5(前期▲57.1)とプラス94.6ポイントでいずれも減少から増加に転じている。販売価格のDIは37.5(前期28.6)とプラス8.9ポイントで上昇傾向は強まり、仕入価格のDIについても▲75.0(前期▲71.4)と▲3.6ポイントで上昇傾向は強まった。資金繰りのDIは12.5(前期0.0)で容易になっている。借入れをした企業は25.0%(前期14.3%)、設備投資の実施をした企業は33.3%(前期25.0%)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは37.5(前年同期0.0)とプラス37.5ポイント、収益のDIにおいても37.5(前年同期▲28.6)とプラス66.1ポイントでいずれも増加に転じている。

◇来期の見通し:来期の見通しについては、業況のDIは▲37.5(今期▲12.5)と▲25.0ポイントで業況感については厳しさを増す予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲37.5(今期25.0)で▲62.5、収益のDIにおいても0.0(今期37.5)と▲37.5ポイントでいずれも水面下に落ち込む見通しである。価格面をみると、販売価格のDIは25.0(今期37.5)で上昇が弱まり、仕入価格のDIにおいても▲50.0(今期▲75.0)とプラス25.0ポイントで上昇が弱まる予想である。資金繰りのDIにおいては12.5(今期12.5)ですべての企業で窮屈さは無く、変わらない予想である。借入れを予定している企業は12.5%(今期実施25.0%)、設備投資の実施を予定している企業は12.5%(今期実施33.3%)となっている。

◆DI指数推移

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲14.3	▲28.6	14.3	▲14.3	▲12.5	▲37.5	
売 上 額	28.6	▲14.3	42.9	▲42.9	25.0	▲37.5	
収 益	0.0	▲28.6	14.3	▲57.1	37.5	0.0	
販 売 価 格	57.1	42.9	14.3	28.6	37.5	25.0	
仕 入 価 格	▲57.1	▲49.9	▲42.9	▲71.4	▲75.0	▲50.0	
在 庫	0.0	▲14.3	▲14.3	▲14.3	0.0	▲12.5	
資 金 繰 り	0.0	▲14.3	0.0	0.0	12.5	12.5	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	し た	14.3	14.3	28.6	14.3	25.0	12.5
	し ない	85.7	85.7	71.4	85.7	75.0	87.5
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	14.3	12.5	—
	不 変	71.4	85.7	85.7	71.4	62.5	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該 当 なし	28.6	14.3	14.3	14.3	25.0	—

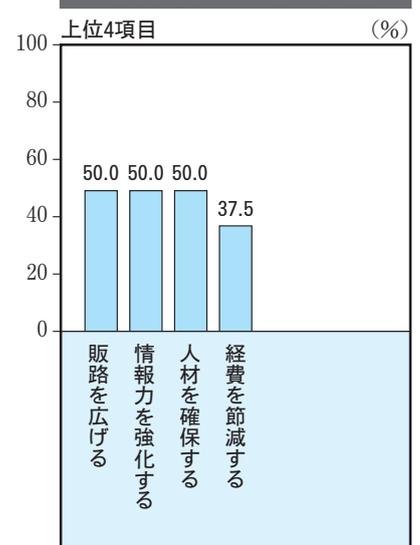
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	し た	37.5	55.6	37.5	25.0	33.3	12.5
	し ない	62.5	44.4	62.5	75.0	66.7	87.5
状 況	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	85.7	85.7	71.4	85.7	87.5	87.5
	不 足	14.3	14.3	28.6	14.3	12.5	12.5
DI	▲14.3	▲14.3	▲28.6	▲14.3	▲12.5	▲12.5	

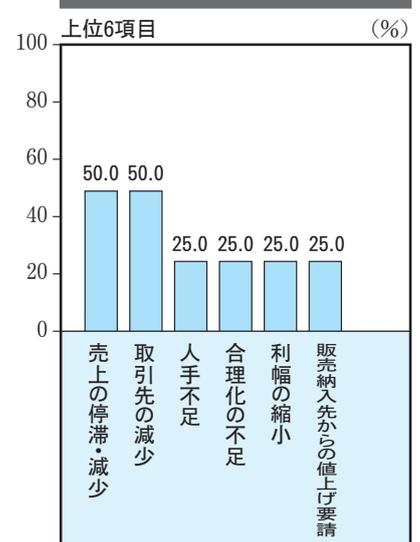
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	28.6	14.3	0.0	0.0	12.5	12.5
	不 変	57.1	85.7	85.7	71.4	75.0	75.0
	減 少	14.3	0.0	14.3	28.6	12.5	12.5
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
	適 正	85.7	71.4	57.1	71.4	87.5	75.0
	不 足	14.3	28.6	42.9	28.6	12.5	12.5

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

小 売 業

(調査先企業37社 うち回答企業31社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**29.0%**（前期**28.1%**）、悪かったとする企業は**32.3%**（前期**46.9%**）、DIは**▲3.2**（前期**▲18.8**）とプラス**15.6**ポイントで水面下ながら改善傾向となった。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**35.5**（前期**9.4**）とプラス**26.1**ポイントで好調さを強め、収益のDIも**19.4**（前期**▲15.6**）とプラス**35.0**ポイントで増加に転じている。価格面では、販売価格のDIは**58.1**（前期**65.6**）と**▲7.5**ポイントで上昇幅は縮小、仕入価格のDIにおいては**▲74.2**（前期**▲87.5**）とプラス**13.3**ポイントで仕入価格の上昇幅も縮小した。また、資金繰りのDIは**▲16.1**（前期**▲18.8**）とプラス**2.7**ポイントで窮屈感は弱まった。借入れをした企業は**22.6%**（前期**18.8%**）、設備投資の実施をした企業は**22.2%**（前期**21.4%**）となっている。

これを前年同期と比較すると、売上額のDIは**29.0**（前年同期**▲11.8**）とプラス**40.8**ポイントで増加に転じ、収益のDIも**19.4**（前年同期**▲26.5**）とプラス**45.9**ポイントで好転している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲9.7**（今期**▲3.2**）と**▲6.5**ポイントで低迷する予想をしている。各指標別を今期と比べてみると、売上額のDIは**▲9.7**（今期**35.5**）と**▲45.2**ポイント、収益のDIにおいても**▲6.5**（今期**19.4**）と**▲25.9**ポイントでどちらも増加から減少に転じる予想である。販売価格のDIは**35.5**（今期**58.1**）と**▲22.6**ポイントで上昇は弱まる予想、仕入価格のDIは**▲54.8**（今期**▲74.2**）とプラス**19.4**ポイントで上昇幅は縮小する見通しである。資金繰りのDIは**▲16.1**（今期**▲16.1**）で窮屈感は変わらず継続する予想となった。借入れを予定している企業は**16.1%**（今期実施**22.6%**）、設備投資の実施を予定している企業は**18.5%**（今期実施**22.2%**）となっている。

◆DI指数推移

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲35.3	0.0	▲28.1	▲18.8	▲3.2	▲9.7	
売 上 額	20.6	3.2	▲3.1	9.4	35.5	▲9.7	
収 益	14.7	▲12.9	▲15.6	▲15.6	19.4	▲6.5	
販 売 価 格	50.0	41.9	50.0	65.6	58.1	35.5	
仕 入 価 格	▲58.8	▲58.1	▲71.9	▲87.5	▲74.2	▲54.8	
在 庫	11.8	3.2	34.4	9.4	25.8	16.1	
資 金 繰 り	▲8.8	▲16.1	▲25.0	▲18.8	▲16.1	▲16.1	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	17.6	16.1	15.6	18.8	22.6	16.1
	しない	82.4	83.9	84.4	81.2	77.4	83.9
借 入 難 易 度	容 易	9.1	13.3	12.9	16.1	16.7	—
	不 変	60.6	60.0	58.1	51.6	53.3	—
	難	15.2	10.0	16.1	9.7	10.0	—
	該当なし	15.1	16.7	12.9	22.6	20.0	—

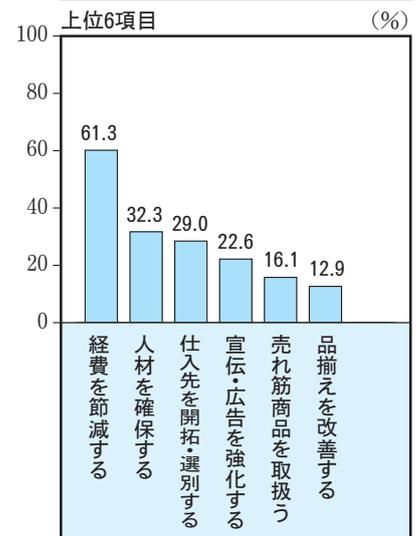
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	9.4	7.7	30.0	21.4	22.2	18.5
	しない	90.6	92.3	70.0	78.6	77.8	81.5
状 況	過 剰	8.8	10.0	6.3	9.4	6.5	3.2
	適 正	76.5	73.3	71.8	65.6	83.8	87.1
	不 足	14.7	16.7	21.9	25.0	9.7	9.7
DI	▲5.9	▲6.7	▲15.6	▲15.6	▲3.2	▲6.5	

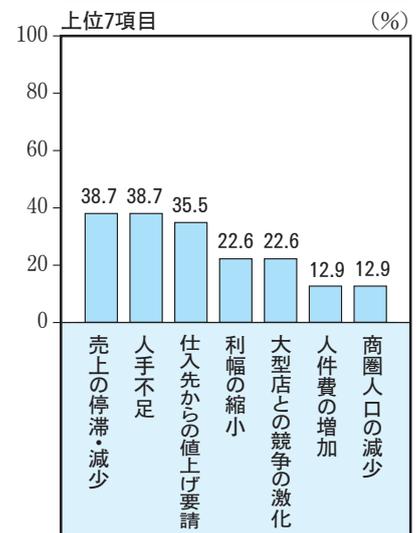
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	6.1	12.9	16.1	22.6	20.0	16.7
	不 変	78.7	77.4	71.0	77.4	76.7	76.6
	減 少	15.2	9.7	12.9	0.0	3.3	6.7
人 手	過 剰	3.0	6.5	6.5	6.5	3.3	3.3
	適 正	60.6	58.0	58.0	51.6	63.4	63.4
	不 足	36.4	35.5	35.5	41.9	33.3	33.3

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



サービス業

(調査先企業26社 うち回答企業23社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**13.0%**（前期**34.8%**）、悪かったとする企業は**39.1%**（前期**21.7%**）、DIは**▲26.1**（前期**13.0**）と**▲39.1**ポイントで厳しさを強めている。

各指標別を前期比で見ると、**売上額のDIは▲17.4**（前期**26.1**）と**▲43.5**ポイント、**収益のDI**においても**▲21.7**（前期**17.4**）と**▲39.1**ポイントでどちらも増加から減少に転じた。**料金価格のDIは4.3**（前期**26.1**）で**▲21.8**ポイントと上昇幅は縮小したが、**仕入価格のDIでも▲56.5**（前期**▲78.3**）と**プラス21.8**ポイントで上昇幅は縮小している。**資金繰りのDIは▲17.4**（前期**▲17.4**）で窮屈感変わらず推移している。**借入れをした企業は13.0%**（前期**17.4%**）、**設備投資の実施をした企業は32.0%**（前期**40.0%**）となっている。

前年同期との比較では、**売上額のDIは13.0**（前年同期**▲4.2**）と**プラス17.2**ポイントで好調に転じ、**収益のDIも▲4.3**（前年同期**▲12.5**）で**プラス8.2**ポイントと減少幅は縮小している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲52.2**（今期**▲26.1**）と**▲26.1**ポイントで、低迷する予想となった。各指標別を今期と比べて見ると、**売上額のDIは▲34.8**（今期**▲17.4**）と**▲17.4**ポイント、**収益のDI**においては**▲39.1**（今期**▲21.7**）と**▲17.4**ポイントで、いずれも減少幅が拡大する見通しである。**仕入価格のDIは▲52.2**（今期**▲56.5**）と**プラス4.3**ポイントで厳しい中ではあるが価格上昇はやや弱まる予想、**料金価格のDIも0.0**（今期**4.3**）と**▲4.3**ポイントで上昇は弱まる見通しである。**資金繰りのDIは▲30.4**（今期**▲17.4**）で窮屈感が強まる予想となった。**借入れを予定している企業は17.4%**（今期実施**13.0%**）、**設備投資の実施を予定している企業は21.7%**（今期実施**32.0%**）となっている。

◆DI指数推移

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲41.7	▲41.7	▲8.3	13.0	▲26.1	▲52.2	
売 上 額	▲16.7	▲25.0	29.2	26.1	▲17.4	▲34.8	
収 益	▲8.3	▲20.8	16.7	17.4	▲21.7	▲39.1	
料 金 価 格	37.5	8.3	45.8	26.1	4.3	0.0	
材 料 価 格	▲75.0	▲83.3	▲87.5	▲78.3	▲56.5	▲52.2	
資 金 繰 り	▲33.3	▲20.8	▲33.3	▲17.4	▲17.4	▲30.4	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	し た	8.7	30.4	20.8	17.4	13.0	17.4
	し ない	91.3	69.6	79.2	82.6	87.0	82.6
借 入 難 易 度	容 易	4.5	13.0	8.3	17.4	8.7	—
	不 変	63.6	52.2	41.7	52.2	52.2	—
	難	18.2	21.7	29.2	17.4	17.4	—
	該 当 な し	13.7	13.1	20.8	13.0	21.7	—

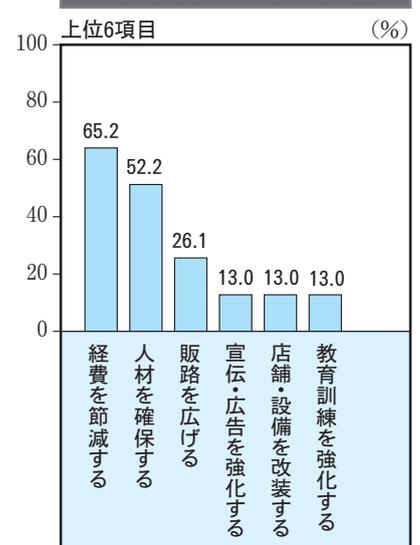
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	し た	27.3	18.2	38.5	40.0	32.0	21.7
	し ない	72.7	81.8	61.5	60.0	68.0	78.3
状 況	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	78.3	70.8	70.8	56.5	69.6	69.6
	不 足	21.7	29.2	29.2	43.5	30.4	30.4
DI	▲21.7	▲29.2	▲29.2	▲43.5	▲30.4	▲30.4	

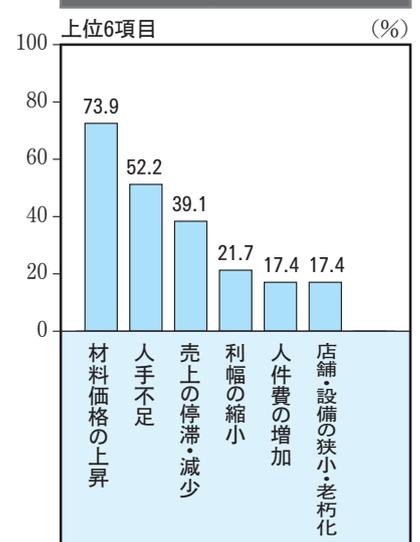
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2022年		2023年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	21.7	0.0	17.4	26.1	8.7	4.3
	不 変	69.6	73.9	78.3	73.9	82.6	74.0
	減 少	8.7	26.1	4.3	0.0	8.7	21.7
人 手	過 剰	4.2	12.5	4.2	0.0	0.0	13.0
	適 正	45.8	41.7	37.5	34.8	47.8	43.5
	不 足	50.0	45.8	58.3	65.2	52.2	43.5

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業5社)

◇**今期の業況**: 今期の業況は、良かったとする企業は0.0% (前期20.0%)、悪かったとする企業は20.0% (前期0.0%) で、DIは▲20.0 (前期20.0) と▲40.0ポイントで業況感が落ち込んだ。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは40.0 (前期0.0) と堅調に推移、収益のDIも20.0 (前期20.0) と安定推移している。価格面においては、販売価格のDIは60.0 (前期80.0) と▲20.0ポイントで上昇傾向は弱まったが、仕入価格のDIも▲60.0 (前期▲80.0) とプラス20.0ポイントで仕入価格の上昇においても弱まっている。資金繰りのDIは、0.0 (前期0.0) で窮屈感はない。借入れをした企業は60.0% (前期60.0%) となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは0.0 (前年同期50.0) と▲50.0ポイント、収益のDIにおいては0.0 (前年同期33.3) と▲33.3ポイントで好調感は後退した。

◇**来期の見通し**: 来期の見通しについては、業況のDIは0.0 (今期▲20.0) とプラス20.0ポイントで水面まで回復の予想。各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは0.0 (今期40.0) ▲40.0ポイントと好調さは後退予想、収益のDIにおいては20.0 (今期20.0) で今期と変わらず増勢の見通しである。販売価格のDIは40.0 (今期60.0) とマイナス20.0ポイントで上昇傾向は弱まるが安定推移、仕入価格のDIにおいては▲60.0 (今期▲60.0) で上昇傾向は変わらない見通しである。資金繰りのDIについては▲20.0 (今期0.0) と窮屈感が現れる見通しである。借入れを予定している企業は60.0% (今期実施60.0%) となっている。

◆DI指数推移

(%)

	2022年		2023年				予想 1~3月
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
業況	0.0	60.0	0.0	20.0	▲20.0	0.0	
売上額	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	
収益	0.0	20.0	▲16.7	20.0	20.0	20.0	
販売価格	50.0	40.0	16.7	80.0	60.0	40.0	
仕入価格	▲16.7	▲60.0	▲33.3	▲80.0	▲60.0	▲60.0	
在庫	▲16.7	▲20.0	▲16.7	▲60.0	▲80.0	▲80.0	
資金繰り	0.0	▲20.0	0.0	0.0	0.0	▲20.0	

◆借入金の動き・難易度 (有効回答に占める割合)

(%)

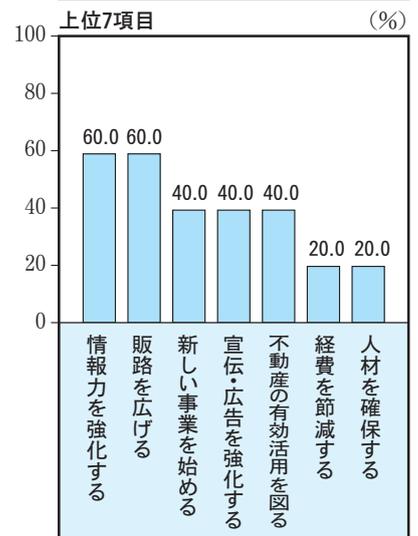
	2022年		2023年				予想 1~3月
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
借入実施	した	50.0	60.0	66.7	60.0	60.0	60.0
	しない	50.0	40.0	33.3	40.0	40.0	40.0
借入難易度	容易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不変	83.3	80.0	83.3	100.0	60.0	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	—
	該当なし	16.7	20.0	16.7	0.0	20.0	—

◆雇用面の動き (有効回答に占める割合)

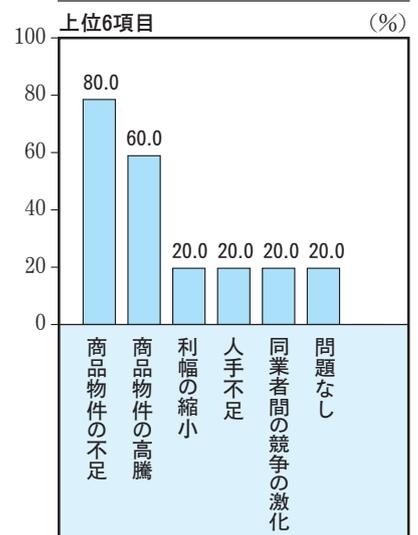
(%)

	2022年		2023年				予想 1~3月
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
残業時間	増加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不変	83.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	減少	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人手	過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適正	83.3	60.0	83.3	80.0	80.0	60.0
	不足	16.7	40.0	16.7	20.0	20.0	40.0

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



特別調査 2024年(令和6年)の経営見通し

問1 貴社では、2024年の日本の景気をどのように見通していますか。

総合では、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）と回答した企業の割合は低く12.4%にとどまっているが、『悪い』（「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計）と回答した企業の割合は57.4%と高くなっている。『良い』-『悪い』は▲45.0となり景況は厳しさを増すと予想しているが、1年前の本特別調査（2023年の経営見通し）での同数値▲69.9と比較すると、プラス24.9ポイントでマイナス領域ではあるが景況の回復傾向が見られる。

業種別に『良い』-『悪い』を見た場合、全ての業種においてマイナス領域であるが、マイナスが大きい順に、建設業▲60.5、製造業▲47.7、不動産業▲40.0、小売業▲36.7、サービス業▲30.4、卸売業▲25.0の順となっている。また、卸売業および不動産業では『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」）と予想する企業は無かった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 非常に良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 良い	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0
3. やや良い	11.8	12.3	7.9	0.0	16.7	17.4	0.0
4. 普通	30.2	27.7	23.7	75.0	30.0	26.1	60.0
5. やや悪い	39.6	38.5	57.9	12.5	36.7	26.1	40.0
6. 悪い	16.0	16.9	10.5	12.5	16.7	26.1	0.0
7. 非常に悪い	1.8	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問2 貴社では、2024年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。

総合では、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）と回答した企業の割合は低く15.4%にとどまっているが、一方『悪い』（「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪い」の合計）と回答した企業の割合は40.2%と高くなっている。『良い』-『悪い』は▲24.8となり、自社の業況（景気）は上記問1の日本の景気見通しと同様に厳しさを増すと予想している。1年前の本特別調査（2023年の経営見通し）での同数値▲40.4と比較すると、プラス15.6ポイントでこちらもマイナス領域ではあるが景況の回復傾向が見られる。

業種別に『良い』-『悪い』を見た場合、全ての業種においてマイナス領域であるが、マイナスが大きい順に、不動産業▲40.0、製造業▲30.8、建設業▲26.3、サービス業▲21.7、小売業▲13.3、卸売業▲12.5の順となっている。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 非常に良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 良い	1.8	0.0	2.6	12.5	0.0	4.3	0.0
3. やや良い	13.6	15.4	7.9	12.5	23.3	8.7	0.0
4. 普通	44.4	38.5	52.6	37.5	40.0	52.2	60.0
5. やや悪い	28.4	29.2	34.2	25.0	23.3	21.7	40.0
6. 悪い	10.1	12.3	2.6	12.5	13.3	13.0	0.0
7. 非常に悪い	1.8	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問3 2024年において貴社の売上額の伸び率は、2023年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

総合では、『増加』（「30%以上の増加」～「10%未満の増加」の合計）と回答した企業の割合は33.1%、『減少』（「30%以上の減少」～「10%未満の減少」の合計）と回答した企業の割合は39.1%であった。『増加』-『減少』は▲6.0で『減少』と答えた企業が『増加』と答えた企業を小幅ながら上回った。また、最も多い回答は「変わらない」で27.8%であった。

業種別に『増加』-『減少』を見た場合、プラス領域（『増加』が『減少』を上回った）であった業種は、卸売業が37.5、小売業10.0、製造業7.7であった。マイナス領域（『増加』が『減少』を下回った）であった業種は、サービス業が▲34.8、建設業▲34.2となっている。不動産業は0.0であった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 30%以上の増加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 20~29%の増加	2.4	3.1	2.6	0.0	0.0	0.0	20.0
3. 10~19%の増加	8.3	10.8	5.3	0.0	16.7	0.0	0.0
4. 10%未満の増加	22.5	29.2	7.9	62.5	23.3	13.0	20.0
5. 変わらない	27.8	21.5	34.2	12.5	30.0	39.1	20.0
6. 10%未満の減少	23.7	15.4	34.2	25.0	13.3	39.1	40.0
7. 10~19%の減少	11.2	13.8	15.8	0.0	6.7	8.7	0.0
8. 20~29%の減少	3.0	4.6	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
9. 30%以上の減少	1.2	1.5	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0

問4 貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。

総合では、『本年中に良好感が出る』（「すでに上向いている」・「6か月以内」・「1年後」の合計）と回答した企業の割合は**51.2%**で、『良好感が遅れる』（「2年後」・「3年後」・「3年超」の合計）と回答した企業の割合は**18.5%**であった。一方で「業況改善の見通しは立たない」と回答した企業の割合は**30.4%**となっており、約3割の企業は先行きが見通せない状況が続くと回答している。

業種別に『本年中に良好感が出る』と回答した企業の割合は、製造業**64.6%**で一番高く、次いで、建設業**51.4%**、小売業**43.3%**、卸売業が**37.5%**、サービス業**34.8%**、不動産業**20.0%**の順となっている。また、「業況改善の見通しは立たない」と回答した企業の割合が最も多かったのは小売業で**50.0%**であった。

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. すでに上向いている	15.5	7.7	29.7	37.5	13.3	8.7	20.0
2. 6か月以内	16.1	26.2	13.5	0.0	13.3	4.3	0.0
3. 1年後	19.6	30.8	8.1	0.0	16.7	21.7	0.0
4. 2年後	11.3	6.2	13.5	25.0	3.3	21.7	40.0
5. 3年後	5.4	4.6	5.4	12.5	3.3	8.7	0.0
6. 3年超	1.8	1.5	2.7	0.0	0.0	0.0	20.0
7. 業況改善の見通しは立たない	30.4	23.1	27.0	25.0	50.0	34.8	20.0

問5 近年、販売価格や仕入価格に上昇の傾向がみられますが、2024年を展望したとき、貴社では価格面の動向をどのように見通していますか。

『販売価格』について、総合的に見ると「緩やかな上昇(10%未満)」が**49.4%**で最も多く、続いて「変わらない」が**39.3%**、「わからない」**4.8%**、「大幅な上昇(10%以上)」**4.2%**、「下落」が**2.4%**と続いている。「緩やかな上昇(10%未満)」が最も多い回答であった業種は多い順に、卸売業が**75.0%**、サービス業が**68.2%**、小売業**56.7%**、建設業**48.6%**、不動産業**40.0%**となった。また、製造業では「変わらない」が最も多く**50.0%**であった。『仕入価格』について、総合的に見ると「緩やかな上昇(10%未満)」が**61.7%**で最も多く、続いて「大幅な上昇(10%以上)」が**20.4%**、「変わらない」**14.4%**、「わからない」**3.0%**、「下落」が**0.6%**と続いている。業種別に見てもすべての業種で「緩やかな上昇(10%未満)」が最も多く、小売業が**66.7%**、建設業が**65.8%**、サービス業**63.6%**、不動産業が**60.0%**、製造業**57.8%**という結果であった。

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 大幅な上昇(10%以上)	4.2	1.5	0.0	12.5	10.0	0.0	40.0
2. 緩やかな上昇(10%未満)	49.4	37.9	48.6	75.0	56.7	68.2	40.0
3. 変わらない(一進一退など)	39.3	50.0	45.9	12.5	23.3	31.8	20.0
4. 下落	2.4	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5. わからない(自社には関係ないなど)	4.8	4.5	5.4	0.0	10.0	0.0	0.0
	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
6. 大幅な上昇(10%以上)	20.4	14.1	23.7	37.5	13.3	31.8	40.0
7. 緩やかな上昇(10%未満)	61.7	57.8	65.8	50.0	66.7	63.6	60.0
8. 変わらない(一進一退など)	14.4	21.9	10.5	12.5	13.3	4.5	0.0
9. 下落	0.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10. わからない(自社には関係ないなど)	3.0	4.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0

フリーローンのご案内

詳しくは、営業店窓口または担当者までお問い合わせ下さい。
<https://www.shinkin.co.jp/alshin/> | あるしん 検索



2023年5月1日現在

お申込みカンタン
スピード審査

**快速! なんでも
応援団**

個人事業主
のお客様
個人
のお客様

最大
ご融資額 **500万円**

**フリーローン
アドバンテージ**

専業主婦・パート・アルバイト
の方もOK! ご融資金額/上限30万円

固定金利 **年3.8%~14.5%** にご融資利率

1,000万円
までお借入可能

事業性資金も
500万円までOK!